

あいさつ



岡山県高等学校体育連盟
会長 長尾 隆史

初夏の日差しのもと、山々の緑も色鮮やかな季節となり、競技会が盛んに開催される時期となりました。

昨年の夏は、39年ぶりに岡山県が主会場県となり中国5県と和歌山県で全国高等学校総合体育大会「2016 情熱疾走 中国総体」が開催され、個人、団体をあわせ10の優勝をはじめ入賞数が84と、郷土選手の活躍は素晴らしく立派な成績を残すことができました。これらの成績は、選手の皆さんの努力はもちろんのこと、指導された先生方や専門部の方々の努力が実を結んだものと、心から敬意を表します。また、地元高校生によるおもてなし活動や総合開会式での歓迎セレモニー、各会場での競技補助員の活動は、郷土選手への大きな励みとなり、好成績に繋がったものと思っています。

さて、6月3日（土）、4日（日）を中心に、本県の高校生アスリートが集い、第56回岡山県高等学校総合体育大会が県内各地で盛大に開催できますことは、主催者としてこの上ない喜びであります。開催に向け諸準備をしていただいた専門部をはじめ関係者の皆様に感謝申し上げます。

この大会は、「繋がる絆 魅せよう僕らの若き力」のスローガンのもと山形県、宮城県、福島県の3県で開催される平成29年度全国高等学校総合体育大会「はばたけ世界へ 南東北総体 2017」の岡山県予選会を兼ねており、インターハイの出場権を懸けた熱い戦いが行われます。高校生アスリートの皆さん、これまで厳しいトレーニングに励んできたと思いますが、その成果を存分に発揮し、悔いの残らない大会にしてください。そして、競技を通じて他校の生徒との交流の輪を広げる有意義な大会にしてもらいたいと思います。それでは、高校生アスリートの皆さん、南東北総体を目指してがんばってください。

終わりにになりましたが、本大会の開催にあたり、ご支援とご協力を賜りました関係の皆様に厚くお礼申し上げます、挨拶といたします。